

## 次世代防災研究者連盟

サマースクール2016

全日本の若手防災研究者が、来る巨大災害に備えてあらゆる分野の叡智を結集させ議論する事を目的に、「次世代防災研究者連盟」が設立されたそうです。その連盟が本年度のサマースクールのセミナーを「稲むらの火の館」で開催し、8月7、8日に来館されました。



京都、大阪、神戸大学、大阪府大、関西、関西学院、龍谷大学の7大学から大学生・院生、指導教官40数名が参加されました。初日の7日は、館内や町内史跡等を見学した後、8班に分かれて課題研究に入りました。

課題は、A、広川町の津波防災 B、稲むらの火の館の活性化 という二つの課題に対してそれぞれのグループが討議を重ねていました。宿舎では夜中の3時頃まで課題に対する提案をつくりあげたようです。

2日目は、各班が練り上げた提案を発表しました。パワーポイントを使っているものですが、避難道路をきれいな光で誘導するもの、外国人には身振り手振りで案内すれば良い、小学生の1日稲むらの火の館館長任命等ユニークな提案がありました。学生同士の質疑応答もあり、その真剣さも含め、楽しい催しでした。

## 「第三の男傑」販売開始

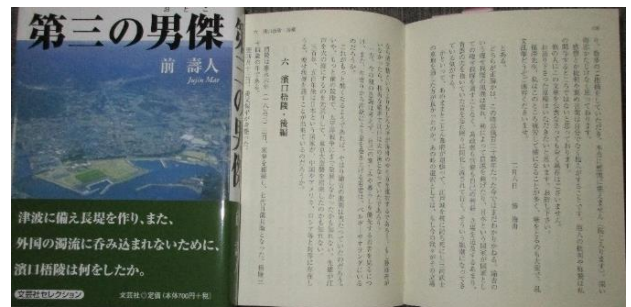
旧金屋町出身で、耐久高等学校を卒業した「前 壽人」さんが著した「第三の男傑」という本の販売を始めました。

著者は、三人の男に注目をして書き進めている。誕生順に言えば、濱口梧陵、勝海舟、そして福澤諭吉の三人のことです。

著者は耐久高校の卒業生ですから、この本の中身はもちろん濱口梧陵が中心ですが、勝海舟や福澤諭吉のことも書かれていて、濱口梧陵との関係もよく分かります。

最近、濱口梧陵翁のことが、新聞・テレビだけではなくこうした書籍や雑誌にもよく登場しています。

こうしたことから、「稲むらの火」の11月5日が「世界津波の日」に制定されたのでしょうか。反対に、「世界津波の日」に制定されたから梧陵さんがよく取り上げられるのでしょうか。いずれにしても、たいへん誇り高いことです。



### 3Dシアターの閉鎖について

「世界津波の日」が制定されたことに伴い、3D映画が多言語化されることになりました。この工事が10月8日から12日まで実施されます。この間、3Dシアターが閉鎖となり、別室での普通映画上映となります。ご来館のみなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承いただけますようお願いいたします。

「現代語訳 濱口梧陵傳」から その3

アジア・オセアニア高校生  
フォーラム引率教員ご来館

君の学問は世を治めることに役立つことを主としていた。安政の津波の時、夜間、人民が狼狽して逃げ惑っている時、君は巨砲を連発することを命じ、皆を高いところへと走らせた。途中の道が暗くては難渋するので、君は田んぼの稲むらに火を付けて灯りにし、多くの人々を死から救った。機知に長けていることはこのことから知られる。私は若い時に君と一緒に剣術を学んだ。それから四十年以上になるが、あたかも夢のようである。しかし、君とはもう会えない。先頃令息や使用人の方々が私に君の履歴を記録することを請うた。その大略はこのとおりである。



碑の裏面には記念碑建設の由来が書かれ、別に梧陵の徳を賛美する左の文が刻まれている。これを執筆した倉田氏は陽明派の碩学で、書は梧陵の生前からの知人、池永直の筆である。

誉れの見事さは人を感じさせること深くまた遠い。濱口梧陵君は学問を深めて世の中に施すこと顕著で、人々は喜んで彼を慕った。伯爵勝君が書いた碑文はその名誉を加えた。碑は東京で製作され、和歌山県有田郡に向かった。有志が嗣子に請い、互いに力を合わせて見晴らしの良い高地に碑を建てた。ああ、君が人の心を得ていたこと、このことから分かる。詩に「鳳凰が東の方向で啼く」(天下泰平のめでたいさま)という。梧陵君が在ったこと、私は次のように銘を書く。

「広浦の上、松の木がうっそうとし、永遠の美德はなんと一郷をめぐっている」と。

明治二十六年四月 倉田績撰文 池永直書  
〔濱口梧陵傳〕は 1500 円で販売中です。

和歌山県・和歌山県教育委員会等が主催した「アジア・オセアニア高校生フォーラム」へ参加した高校生を引率されてきた先生方が、「稲むらの火の館」へ来館されました。

インド、インドネシア、オーストラリア、カンボジア、シンガポール、タイ、韓国、台湾、中国、トルコ、ニュージーランド、ネパール、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、香港、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、ラオスの20カ国から来られ、津波防災の研修をされました。

<お客様の声>

1、和歌山人として、とても誇りに思うし、うれしいし、感動しました。私は和歌山で生まれ育ったのだけれど、昨年まで「稲むらの火」のことを知りませんでした。きっとそういう人が多いと思います。もっと知って欲しい。

(大阪市から来られた女性)

2、学校から派遣でインドネシアのアチェへ行きます。その前に、稲むらの火や濱口梧陵の津波の時の活躍を勉強しに来ました。向うの高校生との交流もあると思います。

(日高郡の高校生)

3、中学生の子供が小学生の時に、災害ボランティアに選ばれて活動しました。前からこちらへ来たいと思っていたのですが、やっと来れました。津波防災の勉強ができました。

(神戸方面からの親子連れ)

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

Tel : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano hi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

\*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29~1/4）

\*記念館だけの入場は無料です。